

かわさきTMO通信

<毎月おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

2011・9・10月号 No.36

- オープンカフェ実現にむけて
- 川崎駅周辺地区の老舗店マップ
- イベント月間情報

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：副会頭 深堀和子
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2011年11月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-540-3904
 FAX：044-540-3900
 Email：sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指して
 います。タウンマネージャーにお気軽に
 情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇オープンカフェ実現に向けて

かわさきTMO回遊性部会が今年度から本格的に検討を始めたテーマにオープンカフェ事業があります。

かわさきTMOでは、これまでも「楽しく歩ける街」を目指して、街角にアーティストたちの活動の場を設け道行く人々の耳に音楽を届けるバスカー事業や、川崎駅東西と富士見周辺地区を一体的に回遊できるように歩行者の移動をサポートする新しい交通体系の検討などを行ってきました。そして今、シヨッピングの途中などで、人々が気軽に街なかで休憩や食事をできるオープンカフェの実現に向けて検討・調整に着手しています。

オープンカフェは、通常の屋内のカフェに比べ、開放感を楽しめるほか、街に賑わい感を創出する、景観形成に寄与する、また人々の視線を街なかに投げかけることにより治安向上の役目も果たすなどの効果があります。

オープンカフェというと、日本国内では歩行者天国やお店の敷地内に設置されているイメージが強いかと思いますが、欧米では歩道や広場などの公共空間にも多く見られ、人々の憩いの場所として生活の中に溶け込んで

います。

日本では法的な制約から、公共空間上でのオープンカフェが、なかなか普及しない状況が長らく続いていました。平成17年に国土交通省から道の活用に関するガイドラインが、同時に警察省からは通達が出され、「公共性や交通への影響に配慮すること」を前提に、地域振興のための道の多様な活用は推進すべき」との国としての実質的な方向転換が示されたことから、追い風が吹く状況になったと言えるでしょう。

こうした流れの中、横浜の日本大通りでは、社会実験として始まった歩道上のオープンカフェの設置が、日常的、継続的な形で実現しています。



横浜 日本大通りのオープンカフェ

現在2店舗が出店していますが、1店舗はメニューの置いてある席に座り、注文をすると正面のお店から料理を運んでくるレストランタイプ。もう1店舗は正面の店からコーヒーや軽食をテイクアウトしてオープンカフェで飲食するコンビニタイプで、同じオープンカフェでもバリエーションがつけられるものだと思います。

さて、川崎では今後、どのようにオープンカフェを広めていけばよいでしょうか？以前よりハードルが低くなったとはいえ、複数の箇所でも継続的に実施していく上では、やはり周辺環境等に配慮するためのルールを作り、皆で遵守していく仕組みを築く必要があるでしょう。そうした意味で、TMOには出店者間の調整役、また行政機関等との折衝役として機能が求められます。

また、賑わいを呼ぶための工夫も必要です。回遊性部会のミーティングでは、「バスカーと連携した生演奏を楽しめるオープンカフェ」といった構想も出ています。是非、皆様のアイデアを結集して川崎らしいオープンカフェを広めていきたいと思えます。

(専門委員 荒木淳)

◇川崎駅周辺地区の老舗店マップ

最近サステイナブルという言葉がよく耳にします。永续性と訳されていますが、よくサステイナブル社会をつくるなどといわれます。一方、将来だけでなく過去からのサステイナブルも大切です。街に古くから長く続いているものがあることで、安心と豊かさを感じることが出来ます。川崎駅周辺は、先の戦争で一帯が爆撃され、戦前のものがほとんど壊されてしまいました。しかし、川崎駅周辺は旧東海道川崎宿という立派な歴史を持っています。現在の砂子通りには、旧東海道の名残と看板が建っており、昔の面影を探しながら歩くことが出来ます。



確かに建物は戦争で失ったかもしれませんが、戦前からの店が今もサステイナブルに生き続けています。川崎駅周辺には、創業百年、五十年の店がいくつもあります。これらの店を「川崎の老舗」として探しています。個々の店が古いという話は聞くのですが、街全体としてどの店が老舗店かという資料がありません。古老に話を聞き、一軒一軒確認していくこととなり手間がかかりますが、川崎の大切な財産として知っておくことが必要です。店を長く続けるということは、並大抵のことではありません。何代も主人が変わり、たしかなものを変わらずに売って、長いこと消費者に愛される必要があります。

かわさきTMOでは、地域共同販促部会において、調査をすすめており、「老舗マップ」を作成し、建物は残っていないが、古い店が今もあるという川崎のサステイナブルな街を、市民、商業者、来街者などに知ってもらおうとしております。そして、老舗の旦那衆が力を合わせて新しい街をつくる源泉となっていくことを期待しております。マップは来年3月にできます。

(タウンマネージャー 笹原克)

◇イベント月間報告

フェスティバルなかわさきポスター。



フェスティバルなかわさきのポスターは、B3判を千枚・京急全線及びJR南武・鶴見線窓上掲出用八百枚を作成いたしました。10月より、各車両に掲出してPRを行いました。今年度は、3月の東日本大震災により被災された地域の復興支援を行うために、フェスティバルなかわさきに参加される12のイベントにおいて、「東日本復興応援物産展」のブースを出展しています。是非この期間に川崎にお出かけいただきたいと思っております。川崎の新たな面が皆様の中に生まれてくることと思っております。

イベント開催期間中、川崎駅周辺の大型店と各イベント会場にタッチラリー機を設置しています。



市内の多くの企業から提供された景品、ホテルの宿泊券・ディナー食事券・大型店のお買物券他に多くの品物を抽選会場（アゼリア西広場）に展示して、タッチポイント4回で1回の抽選ができる形式のイベントを実施いたしました。親子連れ、カップル等の方々が多く抽選会場においでになり、活況を呈していました。特に、10月29日のハロウィンキッズパレードの当日は大変盛況でした。

(事務局・神谷 修)